

性の多様性に関する意識調査（概要）①

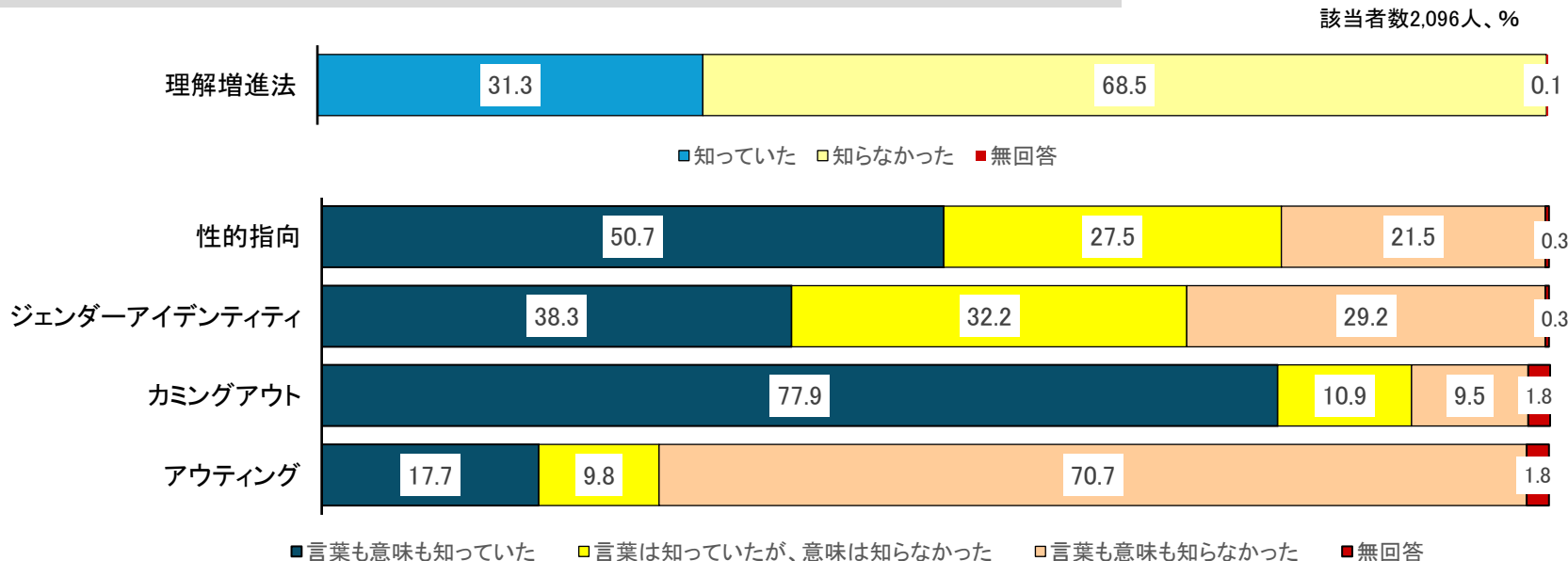
1 調査の概要

- (1) 調査目的
性的指向及びジェンダーアイデンティティの多様性に関する国民の意識を把握し、今後の施策の参考とする。
- (2) 調査対象
全国18歳以上の日本国籍を有する者 5,000人
有効回収数2,096人（有効回収率41.9%）
（有効回収数の内訳：郵送 1,193人、インターネット 903人）
- (3) 調査方法
郵送法（配布：郵送、回収：郵送又はインターネット回答）

- (4) 回答期間
令和7年11月25日～12月27日
- (5) 調査項目内容
1 理解増進法について
2 性的指向及びジェンダーアイデンティティについて
3 カミングアウト及びアウティングについて
4 学習経験について
5 身近な性的なマイノリティ当事者の有無について
6 性の多様性に関する意識について
7 今の日本社会について
- (6) 調査実施機関
一般社団法人中央調査社

2 調査結果について

(1) 「理解増進法の施行」「用語」の認知について



「理解増進法の施行」について

- ・「知っていた」と答えた者の割合は3割程度

「性的指向」という言葉について

- ・「言葉も意味も知っていた」と答えた者は5割程度

「ジェンダーアイデンティティ」という言葉について

- ・「言葉も意味も知っていた」と答えた者の割合は4割程度

「カミングアウト」の言葉について

- ・「言葉も意味も知っていた」と答えた者は8割程度

「アウティング」という言葉について

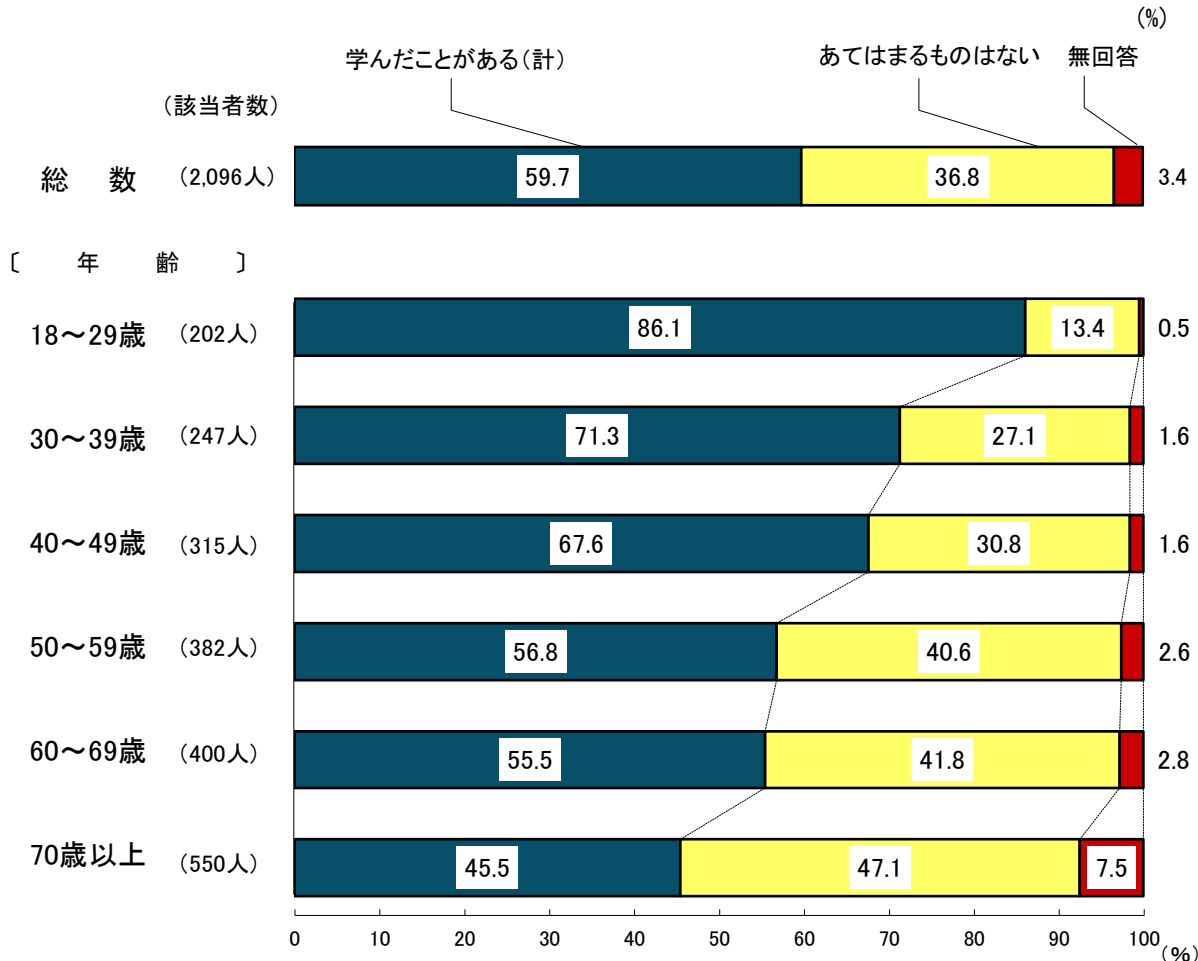
- ・「言葉も意味も知っていた」と答えた者は2割程度

性の多様性に関する意識調査（概要）②

（２）学習経験について

・学校の授業や職場の研修、市民講座などで「学んだことがある（計）」とする者は6割程度

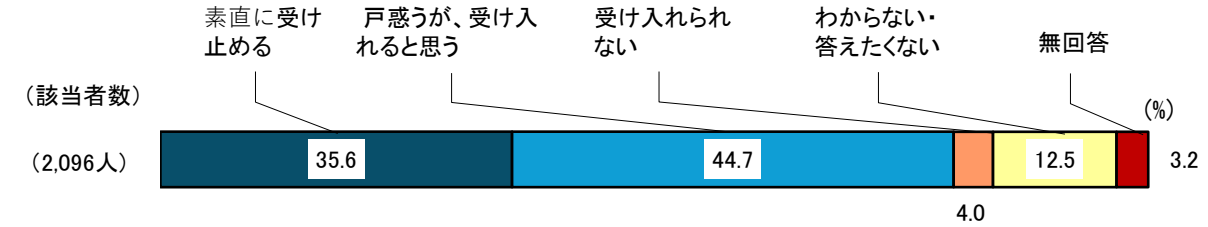
- ・年齢別に見ると、「学んだことがある（計）」とする者の割合は、年齢が若いほど高くなっている。
- ・「あてはまるものはない」と答えた者は60歳代、70歳以上で高くなっている。



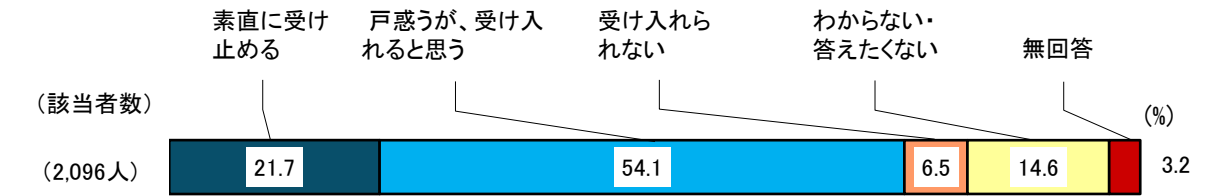
・どのような手段で学んだか聞いたところ、「本やテレビ、動画等を見て自分で学んだ」の割合が5割程度と最も高く、以下、「職場で学んだ」などの順となっている。
なお、「あてはまるものはない」の割合は4割程度となっている。

（３）性の多様性に関する意識について

友人や職場の上司・同僚・部下が性的マイノリティ当事者であったと想像した場合、「素直に受け止める」は4割程度、「戸惑うが受け入れると思う」は4割程度、「受け入れられない」は1割未満



家族（親・子ども・パートナー・兄弟姉妹など）が性的マイノリティ当事者であったと想像した場合、「素直に受け止める」は2割程度、「戸惑うが受け入れると思う」は5割程度、「受け入れられない」は1割未満



（４）今の日本社会について

今の日本社会は、性的指向及びジェンダーアイデンティティの多様性についてやさしい社会だと思うか聞いたところ、「そう思う」は1割未満、「どちらかといえばそう思う」は1割程度、「どちらかといえばそう思わない」は4割程度、「そう思わない」は3割程度

